

「WYSH教育」がねだらるもの

夢と希望に向かつて生れる 子どもたちを育てる

さもありまな悩みを抱える子どもたちに、将来の夢や希望、幸福感を持つて生きてほしい。そういう願いから、各々の学校に合った独自の教材を開発して授業を行うWYSH教育。これまで約30万人の子どもたちが受けた教育について聞いた。

エイズ予防教育から始まる

—WYSH教育は若者へのエイズ予防教育から始まったという」とですが、どのような教育なのでしょうか。

私は、2000年代初めからエイズ予防について研究し、若者の性行動の現状を調査していました。当時は10代の人工妊娠中絶が多くありました時期でしたので、それを何とかしたいと思ったのが最初です。で

すからWYSH教育の始まりは「Wellbeing Youth in Sexual Health」、若者の性の健康向上だったのです。

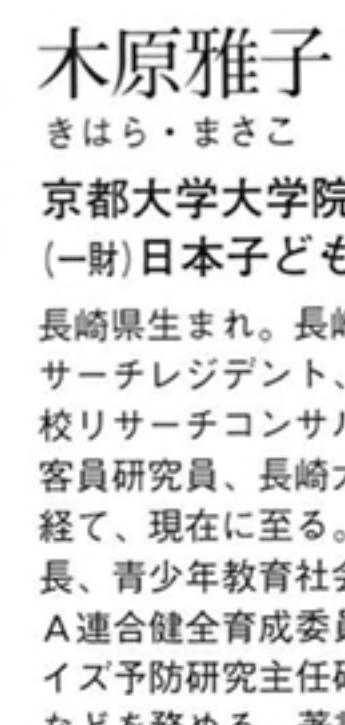
現在はそれを「Wellbeing Youth in Social Happiness (若者の真の幸福)」にしています。なぜなら、危ない性行動を取っている子どもに性感染症の知識を与えたたら行動を変えるかというと、それだけでは変えられなかつたからです。

そういう子たちは、心の寂しさを抱えていて、本当はお父さんお母さんなど家族に愛してほしいと思つているのに、それが適わない

ために代替行為で彼氏彼女を求める場合もあります。その気持ちが満たされなければ、たとえ「こんなことをしたら危ないですよ」と言つても、子どもたちにとつては今、目の前の交際相手を失わないことのほうが大切です。ですから、将来の夢、あるいは心に足りない部分をきちんと補わないと、予防行動にもつながりません。

近年、子どもたちを取り巻く環境の変化は著しく、さらには人間関係は希薄化しています。自尊感も低い。そうした子をサポートする人間関係を築くことができて初めて

ため代替行為で彼氏彼女を求める場合もあります。その気持ちは、よそに女の人がいるし…」といふような話をしてくれる。お母さんのことは全く信用していない。逆に、お母さんが外に男性を作つていると話をする子もいます。



木原雅子
きはら・まさこ
京都大学大学院医学研究科准教授
(一財)日本子ども財団理事長

長崎県生まれ。長崎大学卒。医学博士。エイズ予防財団リサーチレジデンント、カリフォルニア大学サンフランシスコ校リサーチコンサルタント、ニューサウスウェールズ大学客員研究員、長崎大学医学部助手、広島大学医学部講師を経て、現在に至る。他に国連合同エイズ計画共同センター長、青少年教育社会問題研究所所長、元全国高等学校PTA連合健全育成委員会協力委員長、元厚生労働省青少年エイズ予防研究主任研究者、文部科学省の指導者研修会講師などを務める。著書に『10代の性行動と日本社会』他。

て本当に自分らしく輝き幸せに生きる」とができるという思いから、「social happiness」としました。

「社会疫学」の手法で

したがつて、WYSH教育は知識や技術の伝達だけの教育ではなく、構造としては、2階建ての教育になっています。1階部分としては自尊感の向上や人間関係の構

築など人間基礎教育、2階部分では命の問題、いじめ、性の問題、コミュニケーションなど様々な課題に対応する教育を行い、最終的には夢を持ち精神的に自立・自律した子どもを育成することを目指しています。こどもたち一人ひとりが自分の長所に気づいて、将来の夢や希望という大きなゴールに向かって生きて欲しいと願つています。

そのため、私の

本の子どもたちに教育して実際に教育効果があつたものを、その後の研修会で全国から参加された学校の先生方に紹介しています。

かというと、ぱつりと「お父さんは、よそに女の人がいるし…」といふような話をしてくれる。お母さんのことは全く信用していない。逆に、お母さんが外に男性を作つていると話をする子もいます。

たつた15～16歳で、信じがたいほど多くの人生の苦労を経験している子どもたちが相当数存在します。一般的の学校では2～3割、地域によっては6～7割を超えることもあります。ですから、自分は何のために生まれてきたのか分からぬ、愛されているという実感が不確かになつていて。それを埋まつてある気がします。子どもたちへのアンケート調査やインタビューでは、家庭環境が複雑であるかどうかまでは尋ねていませんので、具体的な数値で示すことはできません。ただ、全国の学校を訪ねてみて感じるのは、以前から2～3割の子どもが何らかの家庭の問題を抱えていましたが、最近はそれが増えているように思います。

通常、アンケートとインタビューでは、どのようなことを聞かれるのですか。

35万人のアンケート

社会疫学による調査をもとに、各学校に最も適した教材を開発して授業を行う



学校現場でモデル授業を行い、必ず効果評価を行います。日

開発した教育は、元にその子どもたちの状況に合った教育プログラムを開発していくきます。

両親はいて、家族の構成員は揃っています。では子どもは幸福なのですが、子どもたちが抱えていたが、最近はそれが